

次世代脳プロジェクト 冬のシンポジウム 2019 アンケート結果  
(参加 364名 うち 回答 25名)

1. あなたの所属を教えてください
  - 大学・大学共同利用機関等の常勤職員 / 15
  - 大学院生 / 5      ■ 学部学生 / 1
  - その他の非営利の学術研究機関に所属する常勤職員 / 2
  - 病院 / 0      ■ 企業 / 1      ■ その他 / 1
  
2. 質問1でその他とお答えいただいた方  
政府機関 / 1
  
3. 実際に参加した日程をお答えください
  - 12月17日(火) / 6      ■ 12月18日(水) / 12
  - 12月19日(木) / 15      ■ 12月20日(水) / 10
  - 12月21日(水) / 1
  
4. どのイベントに参加しましたか
  - a. [脳構築の時計と場] [スクラップビルド] [マルチスケール脳] 合同若手シンポジウム / 14
  - b. 「次世代脳」実行委員会企画プログラム「2019年度発足 新学術領域研究[超適応]紹介」「これからの新学術領域研究:我が国の脳神経科学の更なる発展を目指して」 / 12
  - c. 「次世代脳」実行委員会企画プログラム「日本の神経科学～温故知新～」(特集:金澤一郎先生) / 9
  - d. 「次世代脳」実行委員会企画プログラム「ヒトの脳回路機能の解明に向けて～ネズミから探る・サルから探る～」 / 13
  - e. 「次世代脳」実行委員会企画プログラム ポスター発表 / 14
  - f. 若手優秀発表賞 表彰式 / 9
  - g. [脳情報動態] [オシロロジー] [人工知能と脳科学] 合同シンポジウム - 脳型計算アーキテクチャ - / 9
  - h. [「個性」創発脳][共創言語進化]合同シンポジウム - 次世代の音声コミュニケーション研究に向けた議論 - (第2回 USVs 研究会) / 6
  - i. サテライトイベント「脳情報動態」班会議 (班員限定) / 5
  - j. サテライトイベント「オシロロジー」班会議 (班員限定) / 0
  - k. サテライトイベント「人工知能と脳科学」班会議 (班員限定) / 1

5. 参加したイベントのうち有意義と思われたイベントはどれでしたか (a~m は問4に準ずる)

a / 13    b / 8    c / 5    d / 7    e / 13    f / 1  
g / 4    h / 4    i / 4    j / 0    k / 1

6. シンポジウム開催について

- 是非継続してほしい / 24      ▪ どちらでもよい / 1
- 必要性を感じない / 0

7. シンポジウム開催時期について

- 今年度と同じでよい / 25
- その他の時期がよい / 0

8. ポスター発表について

- 是非継続してほしい / 20      ▪ どちらでもよい / 5
- 必要性を感じない / 0

9. プロジェクト (シンポジウム開催、その他の取組) に関して、ご意見・ご感想があれば、ご記入ください

- ・各新学術領域研究メンバー外にも開かれたシンポジウムとして、多くの研究者・学生に参加の機会が与えられているのは良いと思う。
- ・若い先生方のしっかりした発表に感心した。
- ・失敗談のパネルディスカッションは斬新で勉強になった。
- ・ポスター発表とその他のイベントの時間が被らないようにしてほしい。

10. 脳科学研究をこれから更に推進するために必要な要素はどれでしょうか (複数回答可)

- 常勤職員の増員 / 13    ▪ ポスドクの増員 / 9    ▪ 大学院生の増員 / 7
- 補佐員の増員 / 5    ▪ ポスドクとその教育の質の向上 / 8
- 大学院生とその教育の質の向上 / 8    ▪ 補佐員とその教育の質の向上 / 3
- 国内研究者間の研究交流 / 9    ▪ 国際的な共同研究 / 7
- 大型研究拠点の充実 / 2    ▪ 支援拠点の充実 / 8
- 支援の種類の多様化 / 5    ▪ 民間企業との連携 / 6
- より基礎的な研究の充実 / 12    ▪ 出口の見える応用研究の奨励 / 2

- 一般向けの科学コミュニケーションの推進 / 4
- 教育研究以外の雑用を減らす努力・工夫 / 10
- 安心して研究に打ち込める環境作り / 19
- 異分野交流・共同研究の推進 / 7
- 多様な研究者の意見を取り入れる仕組み / 6
- 研究成果の社会への還元 / 3   ▪ 英語使用の推進 / 5
- 評価・審査時の利益相反排除の徹底 / 2

11. 脳科学研究の将来の発展に重要と思われる要素について自由にご意見をお書きください

- ・国内研究機関での公募情報の提示方法の平等化。
- ・研究費の安定的な確保。
- ・科学として必要なこと、知を求めることを大切にしてほしい。それが、脳科学であると発信してほしい。シンポジウムも目標と手段を明確にしながら説明してほしい。
- ・脳科学研究に限らず、支援が足りないと思う。特に金銭面。競争力も大事ではあるが、視野を広くし、全体的な地力をあげないといけないと思う。研究資金よりも、研究者の生活のサポートが必要だと思う。
- ・脳科学の成果を人工知能分野（特に脳型 AI）へ応用していくことが重要だと思うので、この分野の研究を進めて大学や企業と協力して実用化することが大切だと思う。
- ・「脳科学」を掲げつつ、一般向けに非科学的な情報が流れることが多い状況が続いているが、遠からず真実との矛盾が蓄積して「脳科学」の信頼性が損なわれることが危惧される。「出口」や「臨床」などの見栄えの良い看板に頼らずに、真のサイエンスを追求する地盤固めが重要だと考える。脳科学研究に選択と集中のバランスが大きく傾きすぎると、将来的には発展も頭打ちか縮小に転じるかもしれない。科学全体の裾野が広がるべきであると思う。
- ・大型予算を左右する AMED が出口志向かつ書籍関係の雑用が膨大である。その状態が良いと考えている人を私は知らない。それにも関わらず、いつまでも変わらないのは何故なのか。脳研究の活性化に今最求められていることは、小中型予算にして基礎実験に広くサポートし、無意味な報告書は廃することである。
- ・脳科学の将来は「ヒト」に向かうしかないのだろうか。「ヒト」のための科学をやるしか道はないのだろうか。「39 才以下」「45 才以下」に、介護・妊娠・出産等で休んだ期間を考慮してほしい。
- ・ハエや線虫などのシンプルな神経系を持つ生物の研究にも着目する。共通点と相違点を見つければ、種を超えた生命現象の基本概念の理解ができるのではないか。